



すこやか通信

2015.12.22 No.23

● 認知症センター始まりました 院長 中村 隆 ●



長寿の国・日本の課題のひとつに、“認知症”と暮らしていくというテーマがあります。この先、認知症患者さんは増え続けることが予測されています。今ある能力を維持して現在の生活を長く続けて行くために、もの忘れなどに対して理解を深め前向きに取り組むために、そして時間や場所がわからなくなるなどの障害を少しでも減らして安心で豊かな暮らしに繋がる治療を受けるために、国も地方自治体も対策を練っています。当院ではこれまでも“もの忘れ外来”を行ってきましたが、平成27年9月から、認知症の専門医療相談および鑑別診断・治療などに関して東京都の地域連携型認知症医療センターの指定を受けました。

今までの“もの忘れ外来”をさらに発展させて皆様のお役に立てるように努力してまいりますのでよろしくお願いいたします。

もの忘れ外来

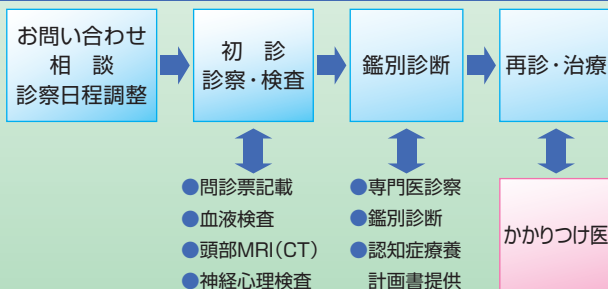
初診から診断までの流れ（はじめて受診される患者さん）

当病院では初診日に各種検査を行うことをお勧めしており、あらかじめ相談員と診察の日程を調整させていただいております。

初診時に行った検査の結果がでるまでは10日ほどかかり、その後専門医（脳神経外科・神経内科）による鑑別診断を行います。

結果に応じて医師・看護師・作業療法士・精神保健福祉士等が問題解決にあたります。

もの忘れ外来の流れ



もの忘れ外来診療日のご案内

	月	火	水	木	金	土
診察・検査	●	●	●	●	●	●
鑑別診断	●	●	-	●	●	●

認知症疾患医療センター専用電話

03 (3611) 9740

受付時間 月～土曜日 9:00～17:00

【理念】

誠心を持って医業を行い、常に医術の向上をはかり、誠実に実行します。

【基本方針】

心暖まる医療・看護を目指し、患者さんの健康の回復に努力し、地域の住民の方々に奉仕します。これを誠実に実行することを我々の喜びと致します。

- ①地域の医院・診療所との連携を密にし、24時間診療体制をとっています。
- ②生活習慣病の予防及び地元企業に働く人々の健康管理に専門的な見地から寄与します。



みこし お神輿がやってきました



9月13日、賑やかな声を響かせながら北町会の御神輿が今年も当院にやってきました。まだ残暑が残る9月ですが、この日は曇りだったため気温も低くて過ごしやすく、子供も大人も例年以上に元気にお神輿を担ぐ姿を見ることが出来ました。

当院に入院されている患者さんも、元気に揺れるお神輿を見て顔をほころばせていました。これだけ活気のあるお祭りは下町の絆の深さだと改めて思うと同時に、見ている側も活気が湧いてくる素晴らしい伝統行事だと感じました。

これからもこの伝統を守っていくために地域の方々との絆を大切に、その健康を支える病院として医療に取り組んで行こうと思います。



嚥下体操！

舌の役割を知ろう！ 舌の運動をしよう！

舌の主な役割は、

- ①咀嚼や嚥下などの消化器官としての役割
- ②味覚を感じる感覚器官としての役割
- ③言葉を自在に使い分ける発声器官としての役割

といった3つが挙げられます。

①咀嚼(そしゃく)、嚥下(えんげ)の役割

口内に含んだ食物などを、私達は歯や舌で形を変え、時には唾液を含ませて食道に送りやすい形・飲み込みしやすいように変えていきます。口の中に残った残渣物などきれいにしてくれるのも舌の仕事です。

②味覚を感じる役割

甘味・苦味・酸味・塩味の4つの味覚を味わうことができます。

③発声としての役割

舌の動きや形を変え、出す音の種類を幅を広げています。



上記の役割がしっかり行えるように、舌をきれいに保つこと、しっかり舌を動かすことは重要とされています。※舌は筋肉なので鍛えることもできます！

ご飯を食べる前などに行ってみてください。(資料提供先 一般社団法人福岡県歯科衛生士会)

●山室 学先生による

医療連携勉強会



11月17日(火)に毎年2回行われている医療連携の勉強会を開催致しました。今回は隅田川診療所 副院長の山室 学先生に「認知症のBPSDと薬物治療について」というテーマでご講演をしていただきました。BPSDに対するケア方法や薬物治療、さらに症例を交えてお話いただきました。

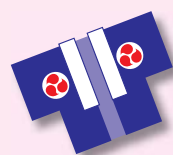
今回は墨田区医師会の先生方等だけでなく、初めて墨田区高齢者総合支援センターの方にもご出席を頂きました。今後も地域医療連携を深めていくため、この勉強会を継続して開催していく予定です。

療養病棟の夏祭り

療養病棟では、お花見・夏祭り・お神輿・クリスマス会等、入院中の患者さんが少しでも楽しく過ごせるように季節に合わせ様々な行事を行っています。

今年の夏は、8月22日(土)の午後から4階食堂にて夏祭りを開催いたしました。

浴衣を着た職員による盆踊りを見た後はみんなでカラオケに合わせ歌を歌いました。夏祭りには欠かせないかき氷も味わい、患者さんやご家族の方・職員、参加者みんなが笑顔で楽しんでいました。



医療連携室のご案内

病気や怪我をすると、様々な問題が生じたり不安や心配事を抱えたりする事があります。

医療連携室では医療ソーシャルワーカーが3名在籍し、このような患者さん・ご家族の抱えている問題について一緒に考え、福祉の専門職としての視点から解決のお手伝いをさせていただきます。

- 例えば・・・
- 退院後の生活に不安がある
 - 医療費などの経済的な悩み
 - 療養生活に関する事 等
 - 転院先について情報が欲しい
 - 福祉サービスについて知りたい

相談についての秘密は厳守いたします。又、相談は無料です。

相談をご希望される方は看護師にお申し出頂るか、医療連携室に直接ご連絡下さい。

予約をして頂けますとお待たせすることなくお話を伺うことができます。又、地域の先生からの患者さんの受け入れ窓口ともなっております。

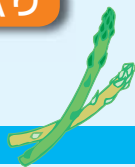
医療連携室ご利用時間：月～土 9：00～17：00（4階 医療連携室）

塩昆布入り

風味ゆたか

さくさくレシビ

春野菜 DE かき揚げ



春野菜に塩昆布を加えてかき揚げにしてみました。
風味ゆたか程よい塩加減、天つゆなしてそのまま美味しくめしあがれます。

材料 (2人分)

- | | | |
|--------------|------------------|-----------------|
| A 揚げ衣 | 片栗粉 …………… 大さじ2 | 「ひら茸 …………… 30g |
| | 小麦粉 …………… 1/4カップ | 三つ葉 …………… 15g |
| | 溶き玉子 …………… 1ヶ分 | 竹の子(水煮) …… 50g |
| B 揚げ油 | …………… 適量 | 玉葱 …………… 50g |
| C 素材 | | 「アスパラガス …… 50g |
| | 塩昆布 …………… 10g | 小麦粉(まぶす用) …… 適量 |
| | ↳粗みじんにしておく | |

作り方

- ①一口サイズに切った野菜と塩昆布を合わせ、小麦粉をまぶす。
- ②揚げ衣の材料を合わせ①に加える。
- ③②を4ヶ程になるように分け、170℃に熱した油に入れ揚げる。
- ④油に入れてすぐはあまり触らず、固まりはじめたら裏返しカラッと揚げる。

ちょっと知りたい 検査の話 File.2 ～血糖値とヘモグロビンA1c (HbA1c)～

● 糖尿病の早期発見、予防のために ●

私たちの体は食事を摂ると血糖が上がりますが、すい臓から分泌されるインスリンというホルモンの働きにより調節されています。インスリンは血糖値を下げるホルモンです。糖尿病とはインスリンの作用が不足して血糖値が普通より高い状態が続くことを言います。

糖尿病は早期には自覚症状が現れにくい病気です。早期に発見し良好なコントロールをすれば合併症が予防できます。

二つの検査にはそれぞれ特徴があり、より確かな判断をするために、両方の値を合わせてみるのが大切です。

検査項目	空腹時血糖	ヘモグロビンA1c
何がわかるか	血液の中にブドウ糖がどのくらいあるかを調べる	血液の中のヘモグロビンのうち、ブドウ糖と結合しているものの割合
特徴	食後は高めの値になってしまう	過去1か月2ヶ月間の血糖値の状況を表している
特定保健指導の対象となる基準値	100mg/dl以上	5.6%～6.0%
受診が必要となる基準値	126mg/dl以上	6.5%以上

医療法人社団仁寿会

救急・労災指定

中村病院



院長 中村 隆

当院は日本医療機能評価機構認定病院です

● 診療時間 ●

月曜～土曜

9:00～12:30
(受付8:00～12:00)

13:30～17:00
(受付13:00～16:30)

※水曜日のみ上記に加え

18:00～19:00
(受付17:30～19:00)

● 診療科目 ●

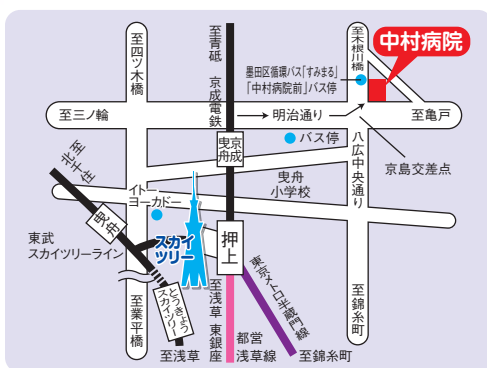
内科	外科	皮膚科
呼吸器内科	消化器外科	泌尿器科
循環器内科	肛門外科	リハビリテーション科
胃腸内科	整形外科	麻酔科
神経内科	脳神経外科	
ペインクリニック	形成外科	

● 休日診 ● 日曜・祝日・創立記念日(3月1日)

※但し急患の場合は、随時受け付けます。

〒131-0041 墨田区八広2-1-1 TEL 3612-7131(代)

ホームページアドレス <http://www.jinjukai.or.jp/>



編集後記

今年は急性期病棟の一部を地域包括病棟に変更したり、東京都から認知症疾患センターの指定を受けるなどいろいろなことがありました。嬉しいことに平成18年から続く日本病院機能評価機構の認定も再更新することができました。

気持ちを新たに、来年は、昭和31年の中村外科醫院の開院から60周年の年を迎えます。(編集長)

